会報
国鉄闘争全国運動
国鉄分割・民営化反対！１０４７名解雇撤回！
８９号
2017年10月16日

国鉄分割・民営化に反対し　１０４７名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町２―８ＤＣ会館内
TEL ０４３―２２２―７２０７
nationwidemovement@yahoo.co.jp

安倍・トランプの戦争会談ぶっ飛ばす銀座1万人デモを

11・5集会の成功へ賛同の拡大を

残業代ゼロ制度をめぐり、連合の逢見事務局長（UAゼンセン）が首相官邸で安倍首相と密会を重ね、連合を残業代ゼロ容認に転換させようと画策しましたが、たちまち連合本部が抗議デモに包囲され、全国から怒りの声が噴出し、連合は残業代ゼロ反対を堅持することを決めました。

UAゼンセンは改憲どころか徴兵制に賛成する組合です。経営者と話をつけてユニオンショップを駆使して労働者の闘いを抑圧する役割を買って出ることで約160万人の組合員を擁する連合最大の単産になりました。産経新聞労組も加わっています。安倍は、財界・政府が育成したUAゼンセンの手引きで連合丸ごとを改憲賛成・自民党支持に転換させようとしたのです。

安倍首相が解散に踏み切ると、今度は、安倍以上に改憲強硬派の小池都知事が新党を立ち上げ、連合の神津会長と小池、民進党の前原が会談し、小池新党に民進党が丸ごと合流することを決めました。一夜にして衆参百数十議席を持つ公党が消滅し、しかも改憲と安保法の踏み絵で選別したのです。

戦後70年の労働運動の歴史の大きな分岐点に立っています。連合は、安倍や小池に翻弄され崩壊過程にあります。現場労働者の怒りや気持ちを無視して、幹部が勝手に自民支持や小池支持を決めています。

連合傘下の組合員は「労働組合が改憲と戦争の旗を振ってよいのか」と危機感を募らせています。安倍と逢見の連合のっとりの画策は失敗し、小池新党も完全に失墜しました。労働者を甘く見た結果です。この激動情勢は、支配の動揺と危機を伴い、労働者の意識の流動化と活性化を生み出します。今回の事態は、国鉄分割・民営化を反動的バネに右翼的労線統一で生まれた連合が崩壊のプロセスに入ったことを示しています。今こそ連合に対抗して、階級的労働運動の旗と陣地を守ってきた国鉄闘争の真価を発揮するときです。労働運動再生情勢が来たのです。

11月上旬、米トランプ大統領が来日し、日米戦争会談が行われます。ブッシュ政権が開始した戦争は十数年が経過し、中東全域に拡大し、数百万人の生命を奪い、数千万人の難民を生み出しています。朝鮮半島で戦争が始まる前にストップさせる闘いが必要です。

労働運動が荒々しく社会に登場する時代が来ました。労働者の国際連帯の力で戦争を止めよう。国際連帯の成功させるため11・5の賛同を拡大し、日比谷野音への大結集を実現しよう。

解雇撤回・JR採用を求めるJR東宛署名 3万7115筆（17年10月16日現在）

出向無効確認訴訟 不当判決弾劾！（記事裏面）

動労東京八潮支部がスト

JR東本社に動労総連合が抗議行動

動労東京八潮支部が10月10日、午前8時20分の就業時から全組合員8人が24時間のストライキに入った（下の写真）。

JR東日本の2次下請けである交通機関サービスに対する①組合員の雇用期間の6カ月から3カ月への短縮の撤回、②深夜の休憩時間の確保と夜勤手当の倍増、③仮眠室の設置の要求を掲げたストだ。

午前8時、交通機械サービス本社のあるJR東日本総合車両センター前で「スト決行中」の横断幕を掲げてスト突入集会。組合員と支援70人が集まった。

金子浩書記長が司会を務め、ストに突入した八潮支部組合員が「今日のストでうらみを晴らす」「私たちの要求は当たり前のこと。それを無視する会社は許せない」「手取り13万円では生活できない。自分の健康と家族を守るために闘う」と決意を語った。

正午から動労総連合によるJR東日本本社への抗議行動が闘われた（上の写真）。約100人が結集し、動労東京のスト要求をJR本社に突きつけ1047名の解雇撤回を求める動労千葉に対し団体交渉にも応じないJRを弾劾し、常磐線の竜田―富岡間延伸に抗議した。

動労総連合1047協議会の小玉忠憲代表が「解雇撤回を絶対にあきらめない」と表明。動労水戸の辻川慎一副委員長が常磐線開通絶対阻止を訴え、動労連帯高崎、動労西日本、動労神奈川などが闘う意思を表した。

最後に動労総連合の川崎昌浩書記長が「すべてを11・5労働者集会へ」と訴えた。

●闘う労働運動をよみがえらせよう！
国鉄闘争勝利！　戦争と民営化・労働法制解体に反対する1万人大行動
11・5全国労働者総決起集会
11月5日（日）正午／日比谷野外音楽堂
（改憲阻止1万人大行進／午後2時～）

強制出向無効確認訴訟 不当判決弾劾！
外注化粉砕へ最後まで闘い抜く

10月10日、動労総連合・強制出向無効確認訴訟の判決裁判が行われた。東京地裁民事第11部の佐々木宗啓裁判長は、外注化も出向もすべて容認する反動判決を出した。外注化や偽装請負、強制出向を合法化することで、安倍政権の働き方改革、戦争と改憲の反動的意思で行われたものであり徹底弾劾する。

判決は、労働協約も本人の同意もなくても「就業規則及び出向規定に基づき、出向を命ずることができる」とした。さらに偽装請負については「違法な状態にすることを目的」にしているか「違法性の程度が社会通念上見過ごせないほど重大」な場合のみ外注化・出向命令が無効になるとした。

「多少違法でも外注化していい」とお墨付きを与えようとしているのだ。具体的な職場の実態についても「偽装請負というほどではない」とごまかした。

違法だが見過ごせない程ではない?! これが裁判所の書いた文章なのか? ウソとペテンとごまかしだらけの本当にふざけきった判決だ。

佐々木裁判長は東京地裁の１０４７名闘争裁判で「不当労働行為」認定を出した白石裁判長を左遷した枠に送り込まれてきた人間だ。裁判中は、あまりの矛盾に裁判長でさえ会社を擁護できなかった。だが、判決文では一転して会社主張を全面擁護した。

出向期間については、「当初、実施から10年をかけて、被告からの出向者がエルダー出向者やプロパー社員に置き換わることを予定」「原告らも、エルダー社員を除く出向を解消するまで10年程度を要することを出向施策の提案時から団体交渉等を通じて認識していた」「出向命令の期間や本件業務委託の方法についての説明に虚偽はなかった」とウソばかりが並んでいる。

「出向期間を延長され、その大多数はJRに復帰することなく定年を迎えるとしても、看過し難い不利益ではない」「通常の異動に伴い甘受すべき程度を超えない」「実質的転籍とはいえない」とまで言っている。

スト破りについては、組合の争議権の問題をあえて避け、「動労総連合だけを狙い撃ちしたものではない」とごまかした。外注化の目的も会社の主張を丸写し、最後に「と認められる」と、なんの理屈もなく全面擁護だ。

しかし、ここまでデタラメにしなければならなかったところにJRや裁判所がいかに追い詰められていたかが表れている。外注化反対の闘いは敵をグラグラに揺さぶっている。不当判決徹底弾劾！　外注化粉砕まで徹底的に闘いぬこう。

銀座1万人デモに立とう
11・5日比谷へ向け東京東部集会

東京・亀戸カメリアプラザで10月13日、「戦争と改憲、絶対とめる　労働法制改悪やめろ！10・13東部集会」が40人の参加でかちとられた。

集会開始前にビデオ上映を行った。日本共産党の裏切りで中止に追い込まれた2・1ゼネストなどの、戦後革命期の労働運動のビデオだ。荒々しい労働者の闘いの姿が新鮮だった。

司会は国鉄闘争全国運動東京東部の会共同代表の米山さん。米山さんは冒頭、朝8時から闘いぬかれた動労東京八潮支部の大井工場前のスト突入集会に参加した感動を述べつつ、八潮支部長が今回の集会に参加してくれたと発言した。

佐藤支部長による24時間ストライキの報告と決意は感動的だった。

続いて、実行委員会を代表して東交の大木さんが「実行委員会からの提起」を行った。大木さんは「安倍が『国難突破』と称して北朝鮮に対する戦争のために衆議院を解散した。これに対して斎藤いくま全学連委員長が東京8区から立候補した。10月15日の阿佐谷デモに総決し、11・5に改憲・戦争絶対反対の労働者集会の銀座1万人デモに立とう」と訴えた。

本集会のメインは動労総連合書記の片峯潤一さんの講演である。片峯さんは斎藤いくま全学連委員長と一緒に法政大学で闘ったことを語りながら、北朝鮮に対する戦争を止めるのは労働者のストライキであり、イラク戦争の時にアメリカの労働組合ILWUが港湾を封鎖するストライキに決起した歴史的闘いについて述べた。

講演の中心は動労千葉労働運動の神髄をわかりやすく、やさしく、しかし力強く語ってくれた。故中野洋元動労千葉顧問と会って話したことがない世代の青年が動労千葉の闘いの歴史と神髄に精通していることに感動した。

質疑・討論の最後に「東部の会」共同代表の橋本さんがまとめと行動提起を行った。

（投稿／国鉄闘争全国運動・東京東部の会）

職場から戦争反対を
改憲と労働法制反対9・30千葉集会

9月30日、千葉市民会館で動労千葉、ちば合同労組の呼びかけで「改憲と労働法制改悪に反対する9・30千葉集会」を開催しました。11・5集会に向けた集会です。国会解散―総選挙の強行、さらには民進党の一夜にしての瓦解という情勢の直後であり、改憲と戦争が切迫する状況のなか労働者・市民を中心に１４０人が参加しました。

ゲストスピーカーの根津公子さん（国鉄闘争全国運動呼びかけ人）は、自身の経験をまじえて「戦争と関係のない職場はない。とりわけ学校職場は戦争と直結している。だからこそ『戦争反対』の仕事ができる」と語ってくれました。

動労千葉から田中康宏委員長は「社会全体が戦争にのみ込まれようとしている状況を止めなければならない。11・5労働者集会・改憲阻止1万人行動へ結集を」と呼びかけました。

船橋の病院労組、ユニオン習志野、介護職場の分会から労働条件改悪との闘い、労働委員会闘争、労働者と利用者の権利破壊は戦争と一体の問題との訴えが行われました。

三里塚芝山連合空港反対同盟から太郎良陽一さんが、「騒音をめぐって周辺住民が立ち上がり始めた」と訴えました。

また、内房線と地域を守る会から従来からは考えられないほどの地域での署名運動の拡がりが紹介され、さらなる署名の協力が訴えられました。

会場からも学生や各市民団体などから発言があり、最後に11・5日比谷集会への結集を確認しました。

新自由主義と闘う労組拠点を
11・5へ練馬区内で東京北部集会

10月3日、「安倍政権による戦争と改憲を許さない北部集会」が東京・練馬区内で開かれ、45人が参加した。集会は、安倍による改憲クーデターの解散総選挙に対し労働組合拠点建設を軸にした地域の組織化と衆院選闘争への決起の場となった。

動労東京の青年労働者の司会で冒頭、自治体労働者が提起した。「国鉄分割・民営化に対して動労千葉を先頭に闘い、いまだ改憲はできていない。安倍の解散・総選挙をぶっとばそう。全学連の斎藤委員長と共に、闘う労働組合の団結をつくり若い世代に引き継ぐ決意で組合役員に名乗りをあげた」。

百万人署名運動東京北部連絡会がスライドを使って、安倍のデマ・ペテンの政治手法を暴露し、会場から「そうだ」の声。

「日の丸・君が代」不起立を闘う教育労働者が「自分の学校でもJアラートを使った戦前とみまがう訓練が行われている」と警鐘を乱打した。

都庁ふくしま署名解雇の当該である柿沼さんは「小池のどの口が『原発ゼロ』か！　福島避難者の住宅補償を打ち切ったのは誰だ！　私のクビを切ったのは誰だ！」と闘う決意。

動労東京八潮支部がスト決行を宣言し、満場の拍手を浴びた。

今回の集会は、陽和病院（練馬区）で起きた「10・3事件」（入院患者が夜勤中の看護師を刺殺した事件）から10年にあたり、精神医療の労働組合と地域の団結を固める場でもあった。

一陽会労組の坪井委員長は「10・3事件もやまゆり園事件も『命よりも金』の新自由主義、医療福祉の民営化、非正規職化が進行する中で起きた。新自由主義と闘う労組の拠点をつくる。持病を理由に解雇された青年の解雇撤回闘争を18年非正規化攻撃との攻防として闘う」と宣言。一陽会労組組合員が壇上に並び、解雇当該の青年組合員が決意を表明した。

パワハラ解雇攻撃闘う障害者雇用の青年労働者、退職強要や不当処分と闘う東京北部ユニオンの組合員、チラシを見て参加した高齢者、星野絵画展に続いて参加した女性など、練馬地域での運動の広がりを確信できるものだった。

労働組合の拠点建設と地域のうねりを11・5労働者集会、改憲阻止1万人行進へ！

（東京北部労組交流センター）